

歯周疾患検診マニュアルの改定 —新たなマニュアルの論点資料— 埴岡 隆 福岡歯科大学

歯周疾患の実態把握の2つの観点 (1) 高齢期の増加(日本型)と(2) 青年期の発症増加(世界型)の調和が必要

日本型: 高齢者の現在歯数増加により増加傾向、**50～70歳台が有病率のピーク** 出典:平成23年歯科疾患実態調査

世界型: 重度歯周病は疾病負担の6番目の原因、**30～40歳台に発症が急増** 出典:N.J. Kassebaum. J Dent Res 2014

新しく配慮すべき最近の科学知見および社会の動向

危険因子と病因論

生活習慣対策の重視
微小炎症物質、バイオフィルム病原性の視点

NCDs共通リスク

共通リスク因子対策による疾病負担全体の恩恵への着目

口腔機能の重視

機能維持・重症化予防の観点からの対策への配慮

口腔・全身の関係性

科学的知見の増加を踏まえた医科・歯科医療連携の活用

機会の有効活用

集団・個別検診の調和
ソーシャルキャピタルの活用推進

個別の事項

検診

- ・重度歯周炎の発症を見逃さないことへの考慮が必要である。
- ・口腔の機能重視の観点から、**アタッチメントロスの指標**を検診指標に考慮すべきである。
- ・これまで頻回に起こった自覚症状の情報は歯周疾患の**将来予測に繋がるため、保健指導情報として考慮すべきである。**

保健指導

- ・生活習慣行動変容の観点から**行動科学の指標(企図、ステージなど)**を重視すべきである。
- ・過去の履歴情報(喫煙歴、かかりつけ歯科医の中断など)を活用できるようにする必要がある。
- ・**医科歯科医療連携の指標(禁煙の意志、禁煙治療・糖尿病治療の受療状況)**を含める必要がある。

保健管理の支援(新しい視点)

- ・歯周病ガイドラインの支援的治療・メンテナンスによる**継続管理との調和**を考慮すべきである。
- ・**動機が高まった時期にも、ただちに支援を受けることができるように考慮すべきである。**
- ・ライフステージ別対応として**歯肉炎への気づきの支援等の早期対応との繋がり**を配慮すべきである。

その他

- ・公衆衛生の**新しい脅威**への指標(無煙タバコ、電子タバコ使用など)を配慮すべきである。
- ・質問票ではスクリーニングと保健指導の**目的別配置**を配慮すべきである。
- ・自覚症状の選択肢では、多岐選択から、最も困っている内容に**焦点を絞り込む工夫**も重要である。
- ・全身の健康情報の利用、**姿勢、顔貌、顎関節の状況**を考慮する必要がある。
- ・「**歯科医院等で〇〇された者**」と「**〇〇している歯科医院**」の**2つの観点から事業を評価**すべきである。